

令和6年度 学校教育目標 「挑戦 つながる笑顔 丹那の子」

重点目標 「自ら学び、共に高め合う子」「自分の思いや考えを言葉で表現できる子」



丹那小だより

函南町立丹那小学校
令和6年5月発行

「つながる」丹那小の伝統

校長 土屋 清隆

新年度が始まり1ヶ月が経ちました。朝校門に立っていると気持ちのよいあいさつをしてくれる子供が多いことに感激しています。「丹那小学校の子供たちはあいさつができることが自慢です。」これは、今から20年以上前のPTA広報誌『玄岳』に当時のPTA会長さんが書かれていたことです。丹那小では当たり前の光景になっていますが、現在は、この「当たり前」の価値観が変化し多様化しています。多様化に対応することも大切です。一方で、世の中が変化しても普遍的な価値をもつこともあります。



あいさつは、自分の心が開いていることを伝え、目の前にいる相手のことを認めている行為でもあります。そんな人と人とのつながりを大切にしようとする姿が地域の中で引き継がれてきたことで、現在の子供たちにもあいさつをすることが「当たり前」の姿として継承されているのだと思います。大きな声であいさつをしてくれる子、しっかり目を合わせてくれる子、にっこり笑いかけてくれる子、頭をさげしてくれる子等あいさつの仕方は様々ですが、これからも本校の伝統として続いていくよう励ましていきます。

丹那小学校の伝統のひとつに、玄岳遠足があります。60年以上続く玄岳遠足は全校児童のチーム力を高める行事です。氷が池からの登頂となりますが、とても険しい道のりです。目標は参加者全員が安全に登りきることに。下級生は上級生に助けをもらい、励ましてもらいながら山頂を目指します。助けてもらった下級生はいずれ上級生となり、立場を変えて助ける側になり、自分たちがしてもらったように下級生を気遣いながら登ります。玄岳遠足を実施するにあたり、縦割りの4つのグループに分かれて歩く順番決めたり、めあてを確かめあったりしていました。しっかりとグループをまとめようとする6年生の姿に頼もしさを感じました。この姿もまた代々引き継がれてきた力なのでしょう。玄岳遠足を通して、よい伝統がしっかりとつながっていくことをうれしく思います。



また玄岳遠足に向けて、4月20日（土）には、CS委員・保護者・教職員合わせて15名程で下草刈りや斜面の階段づくり、ゴミ拾いを行いました。参加していただいた皆様ありがとうございました。

子供たちだけでなく保護者や地域の皆様がチーム丹那小学校として一体となり、みんなで同じ目標に向かって進んでいる学校であり地域であることを実感しています。